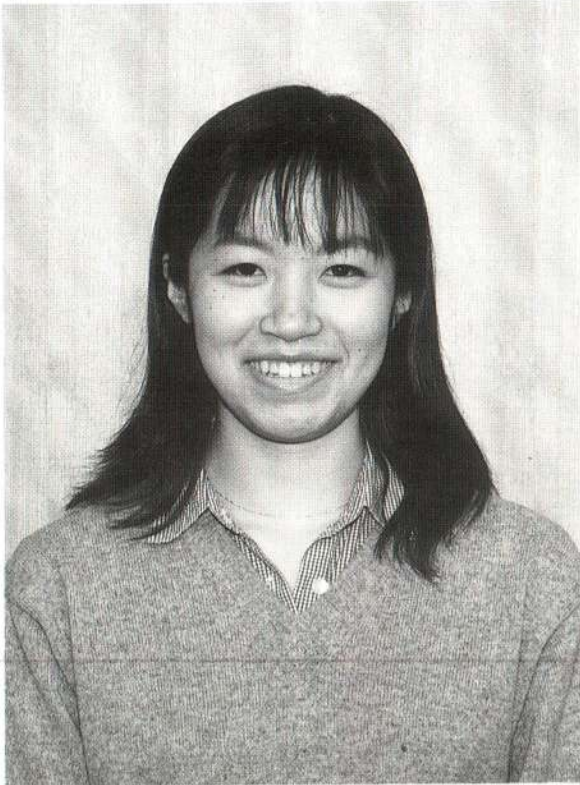


キラットさん

BE AMBITIOUS



秋田桂城短期大学
看護学科 1年

藤田一恵さん

栃木県の実家が酪農業を営んでいることから、子どものころは、獣医になろうと考えていたという藤田さん。ところが、中学生のころ親戚の人が亡くなったのをきっかけに、現在は看護婦を目指して一生懸命頑張っています。

数ある看護婦養成学校の中で、なぜ桂城短大を選んだのかを尋ねました。「小さいころから北国にあこがれていました。大館はそれと一致していたからです。大館は雪がいつぱいで、とてもすばらしいところですね。ここを選んで本当によかったと思っています」と答えてくれました。

高校時代までは年に一回ぐらいしかスキーをしていなかったそうですが、短大入学とともにスキー部を創部。シーズンに入ってから

は、月に二、三回はスキー場に行くようになったとのこと。上級者から指導を受けてめきめき力をつけ、市民スキー大会に出場したそうです。何と、ビックリ「この大会で二位に入賞したんですよ」と目を細めていました。頑張り屋の彼女に拍手、という気持ちです。

学生生活について尋ねたところ、「高校時代は受け身の形で授業を受けていましたが、短大では、専門の科目が多く、積極的に学習ができるようになりました」と話してくれました。また、初めてのアルバイト暮らしですが、そこには同短大の女子だけが入っており「食事を作るのも苦にならないし、友達もたくさんいるのでとても楽しいです」とのこと。ホームシックにもかからなかったようで、現代っ子という感じでした。

「栃木県と比較して大館市はどんな街ですか」と尋ねてみたら、「若者が集まるようなところが少ないように思います。また、道路の壊れているところが多いですね」との注文でした。

短大を卒業後は、保健婦か助産婦の資格を取るため、上級の学校に進学し、その後栃木県に戻って看護婦をしたいとのこと。取材をしていて感じたのですが、彼女はいつも明るく、はきははした素晴らしい女性でした。将来は、きっと患者さんに愛される素晴らしい看護婦さんになることでしょう。



私の本棚

中央図書館新着図書



『川端康成・三島由紀夫 往復書簡』

川端康成・三島由紀夫著
新潮社



「小生が怖れるのは死ではなく、死後の家族の名譽です」三島は川端に後事を託した。文学的交感から日々の生活の心情まで。師弟であり、ライバルであった二人の文学者の、二十五年におよぶ、魂の対話。往復書簡九十四通。

一般書

◇版画で綴る小林多喜二山路越えて(平成八年度大館市立城西小学校六年一組制作) ◇焚火の終わりに上・下(宮本輝) ◇アレキサンドリア(曾野綾子) ◇夜の終りに(赤川次郎) ◇ゴザインタン(篠田節子) ◇三千万円の花束(山村美紗) ◇O.U.T(桐野夏生) ◇生きるヒント5(五木寛之) ◇天風の彩王上・下(黒岩重吾) ◇快樂の伏流(藤本ひとみ) ◇尾張春風伝上・下(清水義範) ◇ルームメイト(今邑彩) ◇夫婦の一日(遠藤周作) ◇この国のなくしもの(野坂昭如) ◇奈落の水(澤田ふじ子) ◇母の乳房(立松和平) ◇あるく魚とわらう風(椎名誠) ◇みんなの秘密(林真理子) ◇サハリン脱走列車(辻真先) ◇さよならにもルールがある(秋元康ほか) ◇逃げ道(フランソワーズ・サガン) ◇お局さまのひとりごと(広瀬久美子) ◇新聞ジャーナリズムの危機(小坂橋二郎) ◇新幹線秋田「こまち」殺人事件(吉村達也) ◇ボケ老人、宮下じいさん絶好調!!(奥村美香) ◇プリンセス・ダイアナ(朝日新聞社編) ◇M.B.A.のマーケティング(D・マーフィー)ほか

児童書

◇魔法からの手紙(角野栄子) ◇ばばあちゃんのマフラー(さとうわきこ) ◇ぐりとぐらの1ねんかん(ながわりえこ) ◇お手本ロボット51号(中松まるは) ◇こいぬ(義平雅夫) ◇KAZU十五の旅立ち三浦知良物語(綾野まさる)ほか

3月の親子読みかせ会……6日(毎月第一金曜日) 14時30分から
3月の中央図書館の休館日……15日、21日、26日